

# OB NEWS

JAPAN PROFESSIONAL BASEBALL

社団法人全国野球振興会  
(日本プロ野球OBクラブ)

vol.52  
2012-WINTER



©水島 敏也  
全国野球振興会  
イメージキャラクター  
(1985-6)

■スペシャル対談 第2弾  
スポーツの力で日本を元気に!

## エポック社の 野球盤

NEW

左右打席対応のハイブリッド  
バットでビッグアーチ!

野球盤 ドクターケイ  
V.S. ダブルスラッガー

7色の変化球と駆け引きを  
楽しめるスタンダードモデル!

野球盤 K(ドクターケイ)

携帯してどこでも遊べる  
コンパクトな野球盤!

野球盤 ジュニア



エポック社  
http://eposh.jp/kyokuryokuban/



キャッチボールより、  
親子の距離は  
縮まった。  
キミが大人になった時、  
パパと野球盤で遊んだこと  
を忘れないでほしいなあ。

スペシャル対談  
第2弾

# スポーツの力で 日本を元気に！



文部科学省は「スポーツ立国・日本」を目指して「スポーツ基本法」を策定しました。社団法人全国野球振興会は、かねてからプロ野球OBの豊富な人材を活用してアマチュア野球の指導に努めてきました。「スポーツ基本法」によって、地域のスポーツ振興の一環として、プロ野球OBによる野球指導のニーズも一段と高まることと予想されます。文部科学省の施策を踏まえ、当振興会が推進する「野球指導者養成の認定制度事業」は、新たな展開のときを迎えようとしています。

## 地域密着型の スポーツ振興を目指して

森理事長（以下 森） ■昨年6月にスポーツ振興法が「スポーツ基本法」へと全面改正され、アマチュアとの垣根もなくなりつつあります。そういう流れの中で我々プロ野球OBがどうすればスポーツ振興のお役に立てるか、今日は文部科学省の方針やこれから進めていける施策

などについてお伺いしたいと思います。森岡室長（以下 森岡） ■スポーツ基本法の前文には、「スポーツは世界共通の人類の文化である」、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人の権利である」ということが大きく掲げられています。全ての国民が自発性のもとに、それぞれの競技や特性に応じて安全かつ公正な環境のもと、日常的にスポーツに親しむ、またはスポーツを支える活動に参画できる機会を確保しようということを目指しています。

森 ■それにプロスポーツ界がどのような形で社会貢献できるかということが大切です。「見るスポーツ」は現役の選手にお任せして、我々は「するスポーツ」に対するサポートが必要だと考えます。そのためには指導者育成の問題をはじめ、いろいろな問題があります。以前から「地域密着型スポーツ振興」ということが言われていますが、私は地域がプロスポーツの活用を躊躇しているように思います。もっと積極的にプロスポーツマンを活用すべきではないかと思えます。

森岡 ■文部科学省としては優れた人材の「好循環」を目的として、トップアスリートや元プロスポーツ選手などに地域スポーツクラブなどへ行ってもらう指導していただくということ、本年度から始めました。「スポーツコミュニティの形成促進事業」です。将来的には全国300ヶ所程度の「拠点クラブ」を作っていくと思っています。プロ野球OBの方々が地域に入り込んで指導していただくということは、私たちが基本法に基づいてやっている事業と合致する話なんです。

森 ■まさしく合致しますね。大事なことは繰り返して実行することです。

森岡 ■スポーツ基本法には遠大な計画があって、トップアスリートが地域で指導して、オリンピックなどの世界を舞台に活躍できる選手を育てれば、そのトップ

アスリートがまた指導者として地域に戻ってくる。これによって「人材の好循環」ということが実現できると思います。それらに加えて、地域において様々な団体同士の横の連携ということも必要です。

森 ■現役の選手は自分の生活をかけて日々戦っていますからオフに参加することは可能ですが、実際に指導するとなるとOBでしょうね。OBになるまでの過程で技術や理論を本当の意味で勉強しやすから指導力も出てきます。OBの活用というのは非常に大切だと思います。

森岡 ■優れたスポーツ選手やスポーツ指導者が、生涯にわたりその有する能力を幅広く社会に活かすことができるよう、知識・技能の習得の支援や環境の整備の促進が必要だと思っています。現役を退いたときに指導者になりたい人、あるいは子どもに情熱を持って指導できる人、子どもへの指導が大好きな人、このような人のセカンドキャリアの促進を我々は進めようとしています。

森 ■OBにアンケートをとると、6割から7割の人は何らかの形で自分の専門職であった野球に関わる仕事につきたいという答えが出ています。正しい指導ができる指導者の育成目的でOBクラブは指導者セミナーを継続して行っています。

## 心を通わす 父と子のキャッチボール

森岡 ■キーワードの一つとして、「連携」「協働」「好循環」だと思います。協働とは「協力して働く」ことです。スポーツコミュニティの形成促進事業はトップアスリートに参加してもらうことによって、地域や学校でのスポーツの参加意欲がどんどん高まってきます。スポーツや体育嫌いな子どもも少なくなります。ただ単にスポーツをするだけではなく、子育て、健康増進、引きこもり対策などスポーツを通してさまざまな地域や生活の課題を解決していこうというのも目的です。P

ロ野球OBの皆さんに地域で貢献していただき、次の世代のアスリートをその地域から生み出す。子どもたちが「おらが町のプロ野球選手」になり、またその選手が地域からプロ野球選手を誕生させる。年数はかかりますが「人材の好循環」を図っていく。これが大事です。

森 ■私たちはキャッチボールのできる広場づくりというもやっています。プロ野球OBたちと連携して空いている施設を有効活用し、親子のキャッチボールをさせたいんです。正しいキャッチボールをプロのOBが地域に行って教え、ボールを通じて親子が心を通わせる。子育てにもプラスになるでしょう。

森岡 ■我々がこれからやろうとしているのは「スポーツ実施率を上げていきましょう」というキャンペーンです。スポーツ実施率を年代別で見ると20～30代が低く、40代以降になってくると増えてきます。20～30代は一番の働き盛りだし、時間が無い。女性でいけば家事、育児が忙しい、一緒にスポーツをする仲間も少ない、職場から帰るのが遅いなどです。このスポーツ実施率の少ない若者に野球をしてもらう何かいい仕掛けがあるとよいですね。

森 ■そうですね。試合をしなくても部分的に楽しく野球を楽しんでもらえばいいわけですから。スローピッチソフトボールは60代以上のチームの全国大会もあるくらい誰でも楽しめる競技です。子ども用にはティーボールがあります。野球少年を底辺から増やすために、小学校低学年がケガをしなくて楽しめる競技です。低学年で楽しくティーボールを経験し、大きくなったら野球選手になる。

森岡 ■子どものころから年配になるまでずっと野球を通してスポーツを続けてもらいたいですね。ライフステージにおいて、その時その時のスポーツをする機会をどんどん我々も増やしていこうと思っています。地域の方にとって野球というのはニーズが高いと思いますので、ぜひOBクラブにご協力いただきたいというのが我々の切なる願いです。

森 ■ぜひ参加させていただきたいですね。プロ野球OBも励みになり、指導するにあたって勉強する意欲が出ます。

## 指導者としての OBの活躍に期待

森岡 ■基本計画の目玉の一つは人材の好循環、プロ野球選手も含めて、いわゆるトップアスリートの方がセカンドキャリアとして地域で指導してもらおう。健康増進も子どもだけに目が行きがちですが、これからは高齢者の方がどんどん増えてきますから、この方々に野球の楽しさをわかってもらおう。健康増進のツールとしての野球であってほしいですね。

森 ■これからはますます高齢化が進みます。少ない子どもは宝ですから、この子どもたちをケガなく真っ直ぐに育てていくということと、高齢者の健康維持・増進のためにもOBクラブを活用してほしいと思います。そのためにも、プロ野球OBにスポーツを取り巻く基礎的な知識を勉強してもらい、レベルの高い指導者を養成していきたいと考えています。現在、条件付ながら、当会会員である元プロ選手の高野連関係への指導が可能になっており、すでに7年が経過しました。評価は大変良好と聞いております。この良好なアマとの関係をさらに拡大していきたいと願っております。そのためにも、我々プロ関係者は指導者としてのさらなるレベルアップを目指して前進していかなければならないと思っております。我々の勉強会（技術セミナー）も140回に達しました。第一ステップの指導員登録制も順調に進んでおります。さらに高いレベルの指導員ライセンス制も考えております。

森岡 ■野球界もずいぶんプロとアマチュアの距離が近くなってきていますよね。森 ■オリンピックはアマチュアの祭典と言いつつほとんどプロですよ。プロとかアマチュアとか言っていられません。それよりプロとアマチュアの壁を取り除くのが良いのではないのでしょうか。

森岡 ■子どもから若者、高齢者もそうですし、女性のスポーツ習慣を定着させていきたい。障がい者の方々のスポーツについても、厚生労働省と連携をとって進めていきます。障がい者や女性も含め、子どもから高齢者までスポーツができる

ような環境づくりというのは、まさに今、始まったところなので、プロ野球OBクラブの方々にもご協力をお願いしたいと思っています。森 ■それはもうぜひ協力させていただきたいですね。文部科学省の指導とアドバイスや知恵をお借りして、プロ野球OBたちが、技術、理論、精神の全てにわたって存分に力を発揮できるようにしたいと思っています。プロ野球OBがスポーツ振興のお役に立てるよう、これからもさらに強い連携をお願いします。

森岡 ■是非よろしくお願ひいたします。



森 徹（もり とおる）  
社団法人 全国野球振興会理事長

1935年11月3日生まれ。旧満州出身（戦後引き揚げ）。早大学院。早大政治経済学部卒。長距離陸上として神宮で活躍。卒業後中日に入団し、新人ながら23本塁打を放つ。2年目は31本塁打、87打点で二冠王に輝く。62年に大洋に移籍し、66年からは東京（現千葉ロッテ）、68年限りで引退した。本塁打王1回、打点王1回、ベストナイン3回、オールスター出場5回。2001年より社団法人全国野球振興会の理事となり、昨年5月に理事長に選任される。財団法人日本プロスポーツ協会の理事も務める。



森岡 裕策（もりおか ゆうさく）  
文部科学省 スポーツ・青少年局 スポーツ振興課 スポーツ連携室長

1960年9月24日生まれ。和歌山県出身。筑波大学体育専門学群を卒業後、83年に東京都立学校教員に採用。和歌山県公立学校教員、同教育委員会保健体育課指導主事等を経て、95年に旧文部省体育局に異動。生涯スポーツ課や競技スポーツ課において総合型地域スポーツクラブの育成支援、国際スポーツ大会や国民体育大会の開催・招致、アンチ・ドーピング活動支援、国立スポーツ科学センターの設置準備等に携わる。その後、和歌山県教育委員会スポーツ課長の経験を経て文部科学省に復帰し、スポーツ立国戦略の策定等に携わる。2011年4月より現職。

# 「第2回総会」開催報告

日時：平成23年11月24日(木) 14:04～15:51  
 会場：東武ホテルレバント東京 3階「龍田」東京都墨田区錦糸1-2-2  
 出席正会員：800名(出席39名、委任状出席761名/総会員数1,586名)

- 【決議事項】
- 第1号議案 平成23年度事業計画および収支予算案に関する件：承認
  - 第2号議案 平成24年度事業計画および収支予算案に関する件：承認
  - 第3号議案 監事に関する件：監事変更承認(夏目 進 辞任→井坂 興 新任)
  - 第4号議案 公益法人制度改革に関する件：総定申請承認
  - 第5号議案 定款に関する件：審議なし
  - 第6号議案 議規程に関する件：原案のとおり承認
  - 第7号議案 一般社団法人に関する件：「一般社団法人日本プロ野球OBクラブ支援センター」との協力関係 解消承認

## 平成24年度 事業計画書

### 1. 野球に関する指導者の養成

- (1) 全国アマチュア野球指導者講習会の開催  
 財団法人日本学生野球協会に指導者登録されたプロ野球出身者を派遣し、全国4会場においてアマチュア野球指導者に実技講習を行う。
- ・実施会場：全国4会場
  - ・受講対象：アマチュア野球指導者
  - ・受講者数：300名
  - ・派遣講師：1会場あたり4名
- (2) 野球指導者養成・認定制度事業の実施  
 ①指導者養成制度および、認定制度の整備に取り組む。  
 ②セミナーの開催
- ・実施回数：5回(全国)
  - ・受講対象：プロ野球出身者(当会正会員)
  - ・派遣講師：1回あたり6名

### 2. 野球に関する技術指導

- (1) 全国少年少女野球教室の開催  
 当法人の会員を指導者として約360名派遣し、47都道府県48会場で、約1万1,000人の小・中学生に技術指導する。
- ・開催日：2012年5月13日(日)
  - ・会場：47都道府県48会場(東京都のみ2会場)
  - ・参加者数：約11,000人
  - ・派遣講師：約360人
- (2) 各種少年野球教室の開催  
 行政、団体、企業等からの依頼により、少年・少女を対象とした野球教室に当法人の会員を指導者として派遣し、野球に関する技術指導を行う。
- また、財団法人日本体育協会から委嘱を受け、「スポーツ選手活用体向上事業(旧トップアスリート派遣指導事業)」として、野球教室に指導者を派遣。
- ①一般野球教室
  - ②スポーツ選手活用体向上事業(日本体育協会より委嘱)
- (3) ベースボールスクール  
 本事業は高校進学後も真剣に野球に取り組もうと考える中学3年生を対象に練習環境を提供。元プロ野球選手がトップレベルの技術を次の世代に伝承する。本事業は当法人がカリキュラム策定にも関与し、集中型技術指導スクールの形態で運営。
- ・開催日：2012年11月～2013年1月の内10日
  - ・会場：神宮室内練習場
  - ・受講者数：15名(中学3年生)
  - ・派遣講師：4名×5日

### 3. プロ・アマ交流に資する各種行事の開催

- (1) 全国アマチュア野球指導者講習会 ※1-(1)参照
- (2) 全日本野球会議 ※4-(1)参照
- (3) 日本高等学校野球連盟関連事業 ※4-(2)参照

### 4. 全日本野球会議その他野球に関する団体との連携協力

- (1) 全日本野球会議主催野球指導者講習会への講師派遣  
 野球に関わる各種団体の連絡協議組織である全日本野球会議の協力団体として、アマチュア野球指導者への技術指導の講習会を実施する。この講習会には、元プロ野球選手をはじめとする当法人の会員を指導者として派遣し、野球に関する技術指導を行う。当該事業は、プロ・アマ問わず野球を愛するすべての団体が一致団結することで、野球が愛され、親しまれ、さらに発展していくことを目的とする。
- ・主催：全日本野球会議
  - ・実施回数：1回
  - ・派遣講師：10名

科目	予算額	前年度実績	増減
<b>I 事業活動収支の部</b>			
① 事業活動収入			
1 基本財産運用収入	10,000	10,000	0
基本財産利息	10,000	10,000	0
2 会費収入	54,390,000	16,170,000	▲1,790,000
正会員会費	10,126,000	11,220,000	▲900,000
賛助会員会費	4,070,000	4,950,000	▲880,000
3 公益事業収入	86,091,000	27,555,000	▲1,264,000
全国少年少女野球教室	12,705,000	11,125,000	▲470,000
全国アマチュア野球指導者講習会	1,490,000	1,400,000	90,000
全日本野球会議	300,000	700,000	▲200,000
中学校軟式野球強化事業	0	0	0
日本高等学校野球連盟関連事業	2,189,000	2,189,000	0
野球指導者養成事業	4,207,000	4,947,000	▲734,000
野球指導者養成・認定事業	500,000	1,000,000	▲500,000
日本プロ野球OBクラブ杯	4,500,000	4,000,000	500,000
青年事業	0	0	0
4 収益事業収入	118,234,000	228,819,000	▲111,585,000
各種少年野球教室	9,587,000	16,812,000	▲7,225,000
講演会	2,718,000	4,455,000	▲1,737,000
OBオールスターゲーム	0	11,403,000	▲11,403,000
肖像権使用事業	28,082,000	18,426,000	9,656,000
物販販売	850,000	1,088,000	▲238,000
スポーツフェア	45,572,000	85,328,000	▲39,756,000
広島県立	16,800,000	8,400,000	8,400,000
全国ベースボールトーナメント	10,578,000	79,210,000	▲68,632,000
ベースボールスクール	1,046,000	1,457,000	▲411,000
5 寄付収入	909,000	0	909,000
東日本大震災復興支援活動義援金	909,000	0	909,000
6 補助金	13,650,000	12,500,000	1,150,000
日本野球機構	10,000,000	10,000,000	0
スポーツ振興くじ助成金	1,350,000	2,300,000	▲1,150,000
三義橋事	2,300,000	0	2,300,000
7 雑収入	0	857,000	▲857,000
<b>事業活動収入合計 (A)</b>	<b>170,484,000</b>	<b>283,711,000</b>	<b>▲113,227,000</b>
② 事業活動支出			
1 公益事業費	41,533,000	42,307,000	▲774,000
全国少年少女野球教室	12,891,000	16,625,000	1,264,000
全国アマチュア野球指導者講習会	2,913,000	2,700,000	213,000
全日本野球会議	578,000	830,000	▲252,000
中学校軟式野球強化事業	625,000	700,000	▲75,000
日本高等学校野球連盟関連事業	3,909,000	3,910,000	▲1,000
野球指導者養成事業	7,772,000	9,166,000	▲1,394,000
野球指導者養成・認定事業	1,642,000	5,000,000	▲1,358,000
日本プロ野球OBクラブ杯	4,203,000	3,374,000	829,000
青年事業	0	0	0
2 収益事業費	69,424,000	148,325,000	▲98,901,000
各種少年野球教室	6,641,000	10,000,000	▲3,359,000
講演会	2,606,000	4,540,000	▲1,934,000
OBオールスターゲーム	0	10,403,000	▲10,403,000
肖像権使用事業	7,132,000	7,026,000	106,000
物販販売	21,000	57,000	▲30,000
スポーツフェア	28,144,000	53,328,000	▲24,184,000
広島県立	30,000	31,000	▲1,000
全国ベースボールトーナメント	1,021,000	62,210,000	▲59,189,000
ベースボールスクール	899,000	718,000	181,000
3 管理費	76,370,000	85,064,000	▲8,694,000
人件費	28,801,000	39,085,000	▲10,284,000
厚生費	3,141,000	6,401,000	▲3,260,000
アルバイト賃金	2,014,000	1,740,000	294,000
倉庫費	917,000	1,224,000	▲307,000
雑費	1,270,000	2,048,000	▲778,000
寄付金控除	11,677,000	9,411,000	2,266,000
健康保険料	648,000	784,000	▲136,000
酒類消費	3,420,000	3,608,000	▲188,000
租税公課	5,418,000	2,940,000	▲2,478,000
印刷費	2,917,000	4,286,000	▲1,369,000
家賃	4,320,000	4,320,000	0
消耗品費	1,073,000	844,000	229,000
水道光熱費	697,000	790,000	▲93,000
印刷手当	4,731,000	1,896,000	2,835,000
賃借料	687,000	621,000	66,000
雑費	3,900	134,000	▲130,100
支払手数料	3,028,000	3,060,000	▲32,000
新聞図書費	141,000	144,000	▲3,000
消耗什器用品費	0	100,000	▲100,000
広島県立費	1,680,000	909,000	771,000
調査研究	351,000	351,000	0
雑費	716,000	368,000	348,000
4 法人税等	70,000	100,000	▲30,000
<b>事業活動支出合計 (B)</b>	<b>167,397,000</b>	<b>276,396,000</b>	<b>▲108,999,000</b>
<b>事業活動収支差額 (A)-(B)</b>	<b>3,087,000</b>	<b>7,315,000</b>	<b>▲4,228,000</b>

- (2) 日本高等学校野球連盟関連事業の開催  
 財団法人日本高等学校野球連盟を通じて各都道府県高等学校野球連盟からの依頼により実施。  
 元プロ野球選手をはじめとする当法人の会員を指導者として派遣し、高等学校野球部を対象に「元プロ野球選手技術指導講習会」を行う。
- ・主催：各都道府県高等学校野球連盟
  - ・実施回数：12回
  - ・派遣講師：1会場あたり4名

科目	予算額	前年度実績	増減
<b>II 投資活動収支の部</b>			
① 投資活動収入			
基本財産売却収入	0	0	0
譲渡利得引当資産取崩収入	0	0	0
敷金等戻り収入	0	0	0
減価償却引当資産取崩収入	0	0	0
借入金からの繰入金収入	0	0	0
<b>投資活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
② 投資活動支出			
基本財産引当資産取崩支出	0	0	0
譲渡利得引当資産取崩支出	0	0	0
敷金等戻り支出	0	0	0
減価償却引当資産取崩支出	0	0	0
借入金への繰入金支出	0	0	0
<b>投資活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>投資活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>			
① 財務活動収入			
借入金収入	0	0	0
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
② 財務活動支出			
借入金返済支出	0	0	0
<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>財務活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>IV 予備費支出</b>	<b>0</b>	<b>7,315,000</b>	<b>▲7,315,000</b>
前期収支差額	3,087,000	0	3,087,000
前期繰越収支差額	20,837,458	20,837,458	0
当期繰越収支差額	23,924,458	20,837,458	3,087,000

1 借入金返済額 5,000,000円 2 借入金利息 0円

5. 会報その他出版物の発行  
 (1) 会報誌「OB NEWS」の発行  
 (2) ホームページの管理・運営  
 (3) 調査研究  
 社団法人日本野球機構、社団法人日本プロ野球選手会との共同でキャリアサポートマガジン「NEW BALL 2013」を発行する。

6. その他目的達成のために必要な事業  
 (1) 講演会への講師派遣  
 ・主催：行政、団体、企業等  
 ・内容：講師により異なる  
 (2) 肖像権使用事業の運営  
 当会及び当会会員の肖像権をテレビゲームソフト、オンラインゲーム、雑誌及び新聞広告等へ貸与する。また、当会会員肖像権を活用した球関連商品(メモリアルリア)を開発・販売。  
 当該事業は公益目的事業の運営資金確保を目的とする。

- (3) 野球指導者及事業の実施  
 ① 社会貢献事業  
 ・東日本大震災復興支援活動  
 ・社会福祉施設等への訪問  
 ・夢・未来応援プロジェクト プルベン(総合学習)への講師派遣  
 ・各種大会等への名義貸与(後援・協力など)  
 ② その他  
 賛助会員、関係者、野球ファンとの交流会の開催

- (4) スポーツフェアへの運営協力  
 財団法人自治総合センターの依頼により、全国8会場で行われる「スポーツフェア」に当法人の会員を1会場あたり16名(延べ128名)派遣する。  
 地元チームと対戦するほか「少年少女ふれあい野球教室」での技術指導、「ふれあい講習会」「ドリーム抽選会」などの野球以外の催しにも協力する。
- ・主催：財団法人自治総合センター、各地方自治体
  - ・協力：社団法人全国野球振興会
  - ・内容：「少年少女野球教室」「ドリームゲーム」
  - ・実施会場：全国8会場
  - ・派遣人数：1会場あたり16名

- (5) 広告宣伝  
 当会活動への支援企業(オフィシャルスポンサー)からの年間協賛金  
 ・株式会社オニザキコーポレーション-5,250,000円  
 ・大和ハウス工業株式会社-10,500,000円  
 ・会報誌広告費-840,000円

- (6) 物販販売  
 公認クラブ及びオリジナルグッズの販売ほか  
 (7) 日本プロ野球OBクラブ杯  
 2010年度から財団法人日本中学校体育連盟加盟の軟式野球部を対象に「日本プロ野球OBクラブ杯」として中学校軟式野球部の県大会を開催。  
 中学校軟式野球のさらなる強化と活性化を図るとともに、野球を通じた青少年の健全育成につなげることを目的とする。  
 本事業は都立大学グループの協力を得て実施する。

## 3.11メモリアル“きすな”ウォーク&ラン TOKYO FOR THE CHILDREN

この度、東日本大震災復興支援活動として「3.11メモリアル“きすな”ウォーク&ランTOKYO FOR THE CHILDREN」に参加協力することになりました。  
 被災地から子どもたちを“招き”、都内の子どもたちが“迎え”、プロのアスリートが“支える”をテーマに実施され、お台場の地で一緒にスポーツに親しみます。  
 誰もが参加できるイベントです。5kmのコースを走って、歩いて復興活動を応援しましょう！  
 詳細は、www.kizunawalk.jpまで。

- 【実施概要】
- 日時：平成24年3月11日(日)
  - 場所：東京都臨海副都心 潮風公園
  - 主催：3.11メモリアル“きすな”ウォーク&ランTOKYO実行委員会、(財)日本健康スポーツ連盟、ウォーク日本1800中央実行委員会事務局有限責任事業組合
  - 後援：財日本プロスポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会、社日本プロサッカーリーグ、財日本ラグビーフットボール協会、社全国野球振興会 他
  - 内容
    - ① “きすな”ウォーキング&ランニング:5kmコース
    - ② “きすな”スポーツ教室:キャッチボール教室(サッカー&ラグビー教室同時開催)
  - 協力内容
    - ・被災地児童招聘(東北対象各県代表幹事担当)
    - ・OB講師派遣10名

## 第17回ダイワハウス全国少年少女野球教室 東日本大震災被災地区、岩手県での開催

延期しておりました岩手県会場が宮古市にて10月29日(土)・30日(日)に行われました。1日目は野球指導者講習会、2日目は「新里山村広場野球場」で約150名(小4～6)への野球教室。当会から森 徹、吉田克朗、大沢 勉、松本匡史、増本 宏、銚子利夫、小野和幸の7名が参加しました。



## 義援金収支報告

お預かりした義援金	¥1,455,424
第17回 ダイワハウス全国少年少女野球教室 義援金	¥909,103
第18回 日本プロ野球OBクラブゴルフコンペ チャリティー収益金	¥457,000
第12回 日本プロ野球OBクラブ ゴルフコンペ 収益金	¥84,700
スポーツファンフェスティバル2011 Winter 参加者募金	¥4,621
<b>使途</b>	<b>¥506,364</b>
6月14日 茨城地区中学校体育連盟 新型ケンコーボール8号50ダース寄贈	¥217,350
8月8日 東日本大震災復興支援サッカーボール交流大会 講師5名分交通費	¥22,624
10月26日 多賀城市体育協会(宮城) 軟式ボール36ダース寄贈(諸経費含む)	¥149,977
10月29日 岩手県教育委員会 体育振興課 スポーツ少年団担当 軟式ボール12ダース寄贈	¥53,361
11月5日 東日本大震災復興支援活動 旭市野球教室 開催諸経費	¥63,052

残額(12月31日現在) ¥949,060

※今後も、被災地での野球教室開催諸経費や野球用具提供への使途を予定しております。

## 野球指導者養成・認定制度事業

# 「(社)全国野球振興会野球技術指導員登録証」発行開始!!

### 野球事業推進委員会報告

かねてから進められてきた認定制度の第一段階! 「野球技術指導員登録証」の発行がついにスタートしました。「野球技術指導員」は、認定制度の基礎資格です。意欲的に指導力向上を目指すプロ野球OBを「指導員」として登録します。「指導員登録証」の取得には、OB相互の勉強会「技術セミナー」の受講と「レポート課題」の提出が必要です。様々な指導現場で活躍する多くのOBに本資格を取得してもらいたいと考えています。取得を目指す方は、2012年度に実施される「技術セミナー」にご参加ください。なお、受講免除の特例もありますので、該当する方は事務局までご連絡ください。

### 野球技術指導員登録証発行概要

#### (目的)

- 一流指導者の養成を目指す認定制度においてステップ・アップへの足がかりとなる基礎資格を設定することで、指導力向上に取り組みやすい環境を提供する
- 受講成果を振興会が認定することで、受講者自身の証明を行う
- 振興会の指導者派遣事業において、本制度が派遣基準の指針となることを目指す

#### (登録基準)

- 登録料: 5,000円(自己負担)

#### ○必須課題:

- ①技術セミナーの受講  
所定6講座(投手編/捕手編/内野手編/外野手編/打撃編/走塁・バント編)
- ②レポートの提出  
1講座600字以上  
(テーマ:自身の経験を交え、受講成果を「基本の技術」としてまとめる)

#### (登録証有効期限)

永久(ただし、退会時に抹消する)

#### (担当機関)

野球事業推進委員会

### 課題免除の特例

#### 1. 技術セミナー講師経験者

技術セミナー所定講座の内、当該講座の受講及びレポートの免除

#### 2. 指導者講習会等講師経験者

技術セミナー全6講座の受講及びレポートの免除  
※免除の特例適用後も可能な限りセミナーを受講すること

#### (免除対象事業)

- ・全国アマチュア野球指導者講習会(主催:全国野球振興会)
- ・全日本野球会議野球指導者講習会(主催:全日本野球会議)

#### 3. 指導者講習会等受講経験者

当該講座受講の免除。ただし、レポート課題必須(免除対象事業)

- ・全国アマチュア野球指導者講習会

#### 4. 技術セミナー 1998-2010受講者

「受講履歴申告書」により申告した講座の受講免除。レポート課題必須

(注)特例期間は、2012年12月31日まで

特例期間を経過した受講履歴は、受講記録に反映されない

監督・コーチ等による指導現場復帰者はその期間を猶予する

#### 5. 技術セミナー 1998-2006受講者

「バント編」の受講免除

※'98-'06期間「バント編」開催実績なし

(注)レポートの「走塁・バント編」においてバントについての内容を加味すること

2012年度技術セミナー  
東京会場・地方会場 各2回開催(春・秋)  
※決定次第OB会員へ通知します

2012年度基礎資格以上の制度として  
教養講座(障害予防・栄養・年齢に応じた指導法等)を  
試験的に実施予定

## 中学校野球部と元プロ野球選手が作る大会 —日本プロ野球OBクラブ杯—

日本プロ野球OBクラブ杯は、中学校部活動に焦点を当て、当会都道府県代表幹事・開催地在住のOB会員と、中学校・地域住民が作り上げる手作り大会です。3年目を迎えた本年は、

帝京大学グループ様をはじめとした各企業、団体様のお力添えをいただき9会場(栃木、佐賀、宮崎、鳥取、鹿児島、長崎、大分、熊本、福岡※)で熱戦が繰り広げられました。 ※開催地



星々と優勝旗を掲げて笑顔の行進



選手、当会会員、ご家族の皆さんでの一枚



すべりこみセーフ!! 各地援戦でした



地域密着の中学校グラウンドでの決勝戦



熱い応援合戦もありました

## 野球教室レポート

2011年もたくさんの野球教室で、多くのOBの方々にご協力いただきました。今回はその中から「スポーツ選手活用体力向上事業」をご紹介します。

この事業は、公益財団法人日本体育協会より委託され、今年度は2011年6月から2012年2月にかけて全国46会場の小中学校で実施。学校の授業の一環として開催され、女の子を含め野球経験のない子どもたちも参加しています。

2011年11月21日に開催された栃木県下野市緑小学校会場には、広澤克実氏を講師に派遣しました。

はじめに、「六甲嵐(おろし)」が響く体育館に向かい、野球教室の前に5、6年生を対象に講話を実施。「目標に向かってやらなければいけないことを逆算して考え、計画しよう」「夢と目標が違っても構わない。夢はいっぱい持とう」「どどん世界に目を向けよう。外国に留学などをして世界を肌で感じよう」などの広澤氏のメッセージに、児童全員が真剣に耳を傾けていました。

講話のあとの質疑応答では、はじめは手が挙がらなかったものの、勇気を持って質問した男子児童に広澤氏のオリジナルシールがプレゼントされるとその後は質問の嵐! たくさんの児童が質問をぶつけ、シールをもらっていました。

お待ちかねの野球教室は6年生75名が対象。準備体操とキャッチボールのあと、ベースランニングを行いました。児童は広澤氏から教えてもらった効率的なベースランニングを必死で守りながら、元気いっぱい走っていました。

ベースランニングのあとは、ティーボールを使用したバッ



ボールの握り方も丁寧に指導いただきました

ティング。男子も女子も力いっぱいバットを振ってボールをたくさん打ちました。遠くに飛ばすと歓声があがり、空振りをしてみんまで応援する。とても楽しいバッティングの時間になりました。

最後は「広澤さんのバッティングが見たい!」という児童の声に応え、広澤氏がバッティングを披露。広い校庭を飛び越してしまうのではと心配になってしまうくらいの大飛球に、児童も先生も手を叩いて喜んでいました。

野球教室の数日後、6年生全員からのお手紙には「今私たちが何を頑張ればいいのかなど、いい話をいっぱい聞けてよかったです」「運動が得意ではなかったけれども、今は体育の授業がとても楽しいです」「野球に興味を持ちました」などの声がありました。

これからもこのような感想を持っていただけるような事業を数多く行っていけるよう、振興会全体で頑張っていきたいと思っております。

## OB会員が『週刊ベースボール』の誌面に登場!!



OBクラブより推薦した2名の会員が、ベースボール・マガジン社発行の『週刊ベースボール』に不定期連載中の「セカンドキャリアの球人力〜第二の人生で生かされるプロ野球魂〜」にて紹介されました。

その2名、引退後に野球道場で小・中学生を教えている三井浩二氏(元西武)、生命保険会社に勤める浅間敬太氏(元ロッテ)を「OB NEWS」でも紹介します。



**PROFILE**  
みつい・こうじ ● 1973年9月15日生まれ。北海道出身。足寄高から新日鉄室蘭、新日鉄広畑を経て2001年ドラフト2位で西武入団。09年限りで引退。通算成績は282試合、36勝20敗15.54H、防御率4.45。

### 三井浩二氏(元西武) 入間野球道場

三井浩二氏が埼玉県入間市に小・中学生を対象とした野球道場を開いたのは、2011年の7月。当初30人ほどだった生徒は月に約10人のペースで増え続け、10月初旬の時点でおよそ50人。西武時代の同僚である大友進氏や加世田美智久氏らとともに、毎週月曜から金曜まで、約1時間のレッスンを20回ほど行っている。

10年3月末に引退を表明して以来、解説の仕事をごさす傍らOBクラブなどの野球教室に参加し、子どもたちを教える楽しさを知った。

「子どもは教えればすぐに変わる。そういう姿を見るのは楽しいし、やりがいもある」

一つの助言で著しく成長する一方で、誤った指導をすればすぐに悪い癖がついてしまうのも子どもたち。ゆえに、道場では基本を重視し、正しい体の使い方を丁寧に教えている。

「プロの打者でもヒットを打つ確率は3割。全部が全部、ヒットじゃなくてもいいから、アウトになる形を大事にしたい」と三井氏。それでも相手はわんぱく盛り少年たち。いきなり「150kmを投げたい」という生徒も中にはいるが、そんな純粋な野心も三井氏は「すぐには無理でも、そのための手助けはします」と真剣に受け止める。

平日の夕方から始まった小学校低学年

のレッスン。「豪速球を投げたい」「ヒットを打ちたい」という子どもたちの素直な気持ちを妨げることなく、寄り添うようにアドバイスを送る姿がそこにあった。いつかコーチとしてプロの舞台に戻れたら、との思いもあるが、その目がひとたび子どもたちに向けば、思うことは一つ。

「夢を持ってほしい。この中から甲子園に行き、プロのカクテル光線の中で活躍する子が出てきてほしい」。子どもたちを見つめる目は、どこまでも温かい。

### 浅間敬太氏(元ロッテ) ソニー生命保険株式会社

オフィスの窓から外を見やると、かつて自らがマウンドに立つことを目指したQVCマリンフィールドが目飛び込んでくる。

「勤め始めたばかりのころは嫌だったけど、今は時間があれば試合を見に行きますよ。やっぱり野球もロッテも大好きですからね」

**PROFILE**  
あさま・けいた ● 1984年8月19日生まれ。千葉県出身。敬愛学園高から2003年ドラフト3巡目でロッテ入団。08年限りで引退。通算成績は2試合、0勝0敗0セーブ、防御率27.00。



OB会員の近況など、情報がありましたら、事務局までご連絡ください  
(TEL: 03-3626-8911)

さわやかな笑みをたたえた顔からは充実感がにじみ出ている。浅間敬太氏、27歳。プロの世界で大成できなかったが、第二の人生での勝手を夢見て奮闘している。

「引退後、周囲の人たちは僕から離れていくと思ったんですけど、みんな親身になってくれたんです。それが非常にありがたかった」

野球一筋の人生で世間知らずだった浅間氏にとって、温かいアドバイスがすべて身になった。同時に現役時代から漠然と抱いていた「人の役に立つ仕事がしたい」という願望が膨らんでいく。そういった状況の中、自らの思いと重なる仕事に出合った。

09年2月1日。野球選手の「正月」であるキャンプ初日。浅間はユニフォームではなくスーツに身を包み、ソニー生命保険での仕事をスタートさせた。コピーの取り方など社会常識をイチから学ぶことになったが、新鮮な気持ちですべてを吸収。野球選手特有の精神力の強さで粘り強く取り組んだ。その結果、現在ではライフプランナーとして会社の貴重な戦力となるまでに成長を果たした。

「野球選手がクラブを職人さんにオーダーしてつくってもらうのと同じで、ライフプランナーもお客様の生き方や将来の夢などを聞いて、その夢を実現するためのお手伝いをする仕事です」

人との出会いを大切にしてきたから引退後の道に迷うことはなかった。これからは周囲の人に「浅間に会えてよかった」と言ってもらえるよう、仕事に適進していくつもりだ。

## 星槎大学通信制課程とは

前号の会報誌でもご案内をさせていただきましたとおり、当会と学校法人国際学園とは青少年の健全育成及びそのための指導者養成を図るために相互協力をする事となりました。

現在、国内において通信制大学で教職課程を修得できる大学は2校しかありません。その中で同校は全国に広がるスクーリング会場を設置しており、科目修得試験会場としてのほか自主ゼミや学生同士の交流などにも活用いただけます。

そのような中、12月21日(水)第2回近畿ブロック会議は、同校の「大阪学

習センター」を利用して開催をいたしました。幹事の皆様をはじめ同校に興味をお持ちの会員の皆様方に施設及び内容をご理解いただくために、今後も同校施設を活用する予定です。

●星槎大学に関するお問合せ先  
星槎大学 横浜情報処理センター  
(担当: 近内篤志)  
〒227-8522  
横浜市青葉区さつきが丘8-80  
TEL: 045-979-0261  
FAX: 045-971-2791  
e-mail: konnai@seisa.ac.jp

## 公益認定法人への移行申請のご報告並びに法令遵守のお願い

平成23年12月1日に、公益認定法人への移行申請を行いました。今後、内閣府の公益認定等審査委員会において審査が進められます。

会員の皆様におかれましては、さらに公益性の高い公益法人を目指す団体の一員として社会的地位の高い会員であるご認識をいただき、コンプライアンス(法令遵守)に努めていただくようお願いいたします。

## エポック社「野球盤」プレゼント!

お父さん世代の昭和生まれの方なら一度は遊んだ昔懐かしい「野球盤」。究極の進化を遂げた「野球盤ドクターケイ V.S. ダブルスラッガー」を抽選で1名の方にプレゼント!

※ご希望の方はおハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、下記住所までご応募下さい。締め切りは、2月29日(当日消印有効)。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

〒130-0012  
東京都墨田区太平4-13-2 太平サクラビル2階  
社団法人全国野球振興会  
「野球盤」プレゼント係



## 特別連載 野球体育博物館 第11回

### 「ベープ・ルース投手」の野球カード

ホームランバッターとして有名なベープ・ルース投手が、大リーグにデビューした当時は投手だったのをご存知でしょうか? 1914年7月11日、ボストン・レッドソックスの左腕投手として初登板し、初勝利しています。レッドソックス時代は主に投手でした。右の写真はそんなルース投手の野球カード(タテ7.5cmヨコ4.1cm)です。1916年にスポーティング・ニュース社から出た200枚セットの中の一枚です。1916年は23勝12敗、17年は24勝13敗と活躍。さらに、18年は13勝7敗で本塁打王! 19年は9勝5敗で本塁打王と打点王!と投打に活躍し、1920年にヤンキースに移籍。その後は打者として大活躍しました。

レッドソックスは、ルースをトレードした後にワールドシリーズ優勝がないため、長い間「パンピーノ(ルースのニックネーム)の呪い」と言われていました。2004年に86年ぶりに優勝し、やっと呪いが解けたようです。

1934年ヤンキースでの最後のシーズン後、日米野球で来日。ルース人気で各球場は満員となりました。この時対戦した全日本を中心に大日本東京野球倶楽部(現読売ジャイアンツ)が結成され、現在の日本プロ野球のスタートにつながっています。翌35年はボストン・ブレーブス(現アトランタ・ブレーブス)に移りますが、6月1日に引退。大リーグ通算714本塁打(レッドソックスで49本、ブレーブスでも6本)ですが、投手としても通算94勝しています(レッドソックスで89勝、ヤンキースでも5勝)。



ベープ・ルース投手(1916年)

名称(開催地)	日程	参加者
ファミスタオンライン イベント(東京)	10/2	横原寛己
スポーツ選手活用体力向上事業(富山、北海道、千葉、徳島)	10/5、6、17、18	清水宏悦、千尋崇永、盛田幸治、高田直志、丹波健二、広野 功
野球事業推進委員会 認定部会(東京)	10/11、12/6	森 徹、井坂 興、中塚政幸、松本匡史、八木沢荘六
全日本野球会議員会(東京)	10/13、11/2	森 徹、土屋弘光、井坂 興、中塚政幸、水上善雄
公益法人制度改革委員会(東京)	10/14	森 徹、道法孝典、玉利 真、川杉収二
技術セミナー(東京、愛知)	10/15、16、11/26	小川 亨、佐野元輝、末次利光、土屋弘光、中塚政幸、仁志敏久、森野利勝、水上善雄、八木沢荘六、与田 剛、若菜高晴
野球事業推進委員会(東京)	10/16、17	森 徹、三浦政基、木村竹志、井坂 興、中塚政幸、八木沢荘六、片平晋作、水上善雄、森 宝生、佐藤 洋、仁志敏久
野球教室(東京、三重、愛知、埼玉、長野、茨城、大阪、京都)	10/20、22、23、30、11/3、12、12/10、18、23	安藤信二、大塚光二、植方耕一、熊島 忠、亀山 勇、川又米利、川崎憲次郎、木保達彦、河野淳基、後藤孝志、藤塚和典、杉山直樹、鈴木 健、鈴木孝政、副島孔太、野田浩司、三井浩二
講演会(東京、北海道)	10/20、11/29	森 徹、山田久志
日本プロ野球OBクラブ杯(鳥取、長崎、鹿児島、大分、福岡、熊本)	10/22、23、11/12、13、23、26、27、12/3、4	三浦政基、今井謙二、鶴野道夫、太田浩喜、大津一洋、大塚 豊、香川伸行、川崎 誠、黒坂淳夫、杉野 収、中塚 勇、永射 保、平川洋幸、藤澤賢也、松崎秀昭、右田一彦、村上良次、安田泰一、米村和樹
東日本大震災復興支援活動(宮城、千葉)	10/26、11/5	小野木 孝、若生智男、辻 政孝、水上善雄、杉山直樹
第7回常務理事会(東京)	10/31	森 徹、清賀秀雄、三浦政基、道法孝典、定永昭紀、横山健一郎、木村竹志、高津義信、玉利 真、吉村 正
スポーツ選手活用体力向上事業(富山、熊本、三重、埼玉、東京、栃木、神奈川県、大阪、佐賀、鹿児島、大分)	11/2、9、10、15、18、21、22、25、29、12/2	内園直樹、片平晋作、川崎憲次郎、齊藤秀光、進藤達哉、副島孔太、宮藤賢治、広澤克実、吉川慎一、前原博之、右田一彦、村岡耕一
日本体育協会公認コーチ養成講習会(静岡)	11/4	森 徹、清野淳基、野村弘樹
独立リーグ 視察(香川)	11/8、11	田中 誠
元プロ野球選手技術指導講習会(宮城、岐阜、兵庫、栃木、鳥取、茨城、広島、島根)	11/12、13、19、26、12/3、4、10、11、17、18	池谷公二郎、石井雅博、石橋 真、大川 卓、小野和幸、片岡新之介、片平晋作、栗橋 茂、河野淳基、佐藤 洋、芝池博明、前田保光、庄司智久、定詰雅彦、鈴木 健、鈴木伸良、外本権義郎、鏡子利夫、辻 善彦、中塚政幸、中塚雅雄、長池徳士、永射 保、西川克弘、仁志敏久、原 健介、広澤克実、福井敬治、三沢 洋、南野時高、元田昌義、山崎慎太郎、渡辺弘基
全国専門学校軟式野球選手権大会 視察(大阪)	11/13、17	和田 徹
第5回理事会(東京)	11/17	森 徹、清賀秀雄、道法孝典、定永昭紀、横山健一郎、木村竹志、池田哲雄、鶴岡秀樹、高津義信、玉利 真、川杉収二、水嶋昭彦、吉村 正、吉田正史
九州地区ゴルフコンペ(福岡)	11/22	森 徹ほか21名
第2回総会(東京)	11/24	森 徹、清賀秀雄、三浦政基、道法孝典、横山健一郎、木村竹志、東江透悟、岡本伊三美、広野 功、池田哲雄、高津義信、玉利 真、川杉収二、水嶋昭彦、吉村 正、五月女 豊
ベースボールスクール(東京)	12/2、9、16	森 徹、鈴木 健、前田孝昌、武野勝彦、桑田真澄
スポーツマンフェスティバル2011 Winter(東京)	12/12	末次利光、鈴木 健、谷沢健一
ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金(東京)	12/12	森 徹、小野和幸、与田 剛
近畿ブロック会議(大阪)	12/21	森 徹、岡本伊三美、木村竹志、井坂 興、谷村友一、黒田 勉、鎌田 実、西川克弘、和田 徹、小川 亨、芝池博明




**Daiwa House**<sup>®</sup>  
大和ハウスクループ

## 共に創る。共に生きる。

大和ハウスクループは、  
グループシンボル「エンドレスハート」に  
お客様と私たちの永遠の絆と  
私たちグループの連帯感を託しました。  
人・街・暮らしの価値共創グループとして、  
私たちは社会に新しい価値を築いてまいります。

大和ハウス工業株式会社  
www.daiwahouse.co.jp



**高木 将樹氏** 2012年1月入会

### 野球界から一時離れて

私は子どもの頃から憧れていたプロ野球の世界にたどり着くことができました。しかし、残念ながら思うようなパフォーマンスや成績を残すことができずに戦力外となりました。正直、引退後は「野球」から心が離れ「野球仲間」とも距離をとってしまっていた自分がありました。しかし、やはり野球で育ち、野球に育ててもらったことは消せません。子どもの頃から野球を通じてとてもたくさんの人たちと出会い、お世話になりました。

一時期は自ら距離を置いてしまった私でも、何年かぶりに会ったり話をしていくと、その数年の距離を感じさせない温かさを感じました。「野球」を通じて経験できた多くのことに心から感謝し、このプロ野球OBクラブを通じて、OB同士の交流を深めたり、次世代の野球選手により良い野球界を残していけることを考えていければと思います。

#### ■新入会員一覧

氏名	代表出身球団	ポジション
香田 勲男	巨人	投手
若生 和也	中日	投手
友利 結	西武	投手
高木 将樹	近鉄	投手

■訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

氏名	代表出身球団	逝去日	享年	生年
河合 静夫	中日	2011年3月30日	78	1933
小沢 泰輔	国鉄	2011年4月1日	76	1935
工藤 正明	巨人	2011年5月13日	74	1936
和中山 史郎	南海	2011年5月16日	66	1945
浅越 桂一	阪神	2011年8月6日	75	1936
西園寺 昭夫	楽天	2011年10月3日	73	1937
大熊 伸行	巨人	2011年10月22日	69	1942
西本 幸雄	大毎	2011年11月25日	91	1920
伊藤 光四郎	西鉄	2011年11月30日	74	1937

# 愛され続けて55年



オニザキの「つきごま」はゴマの粒を程よく残しつつ、  
硬い皮を細かく砕き、

ゴマ本来の甘みと、独特のしっとり感が特長です。

料理にお使いいただくだけでなく、そのまま食べても美味しいすりごまです。

杵つき製法でていねいに作ったオニザキの「つきごま」シリーズ



株式会社 オニザキコーポレーションセルス

〒862-0951 熊本市上水前寺1-6-41 OCOビルディング

お電話の方は…

0120-30-5050

受付時間 / 【平日】9:00～20:00【土日祝】9:00～17:30

FAXの方は…

0120-50-4141

オニザキ

検索

<http://www.gomagoma.net/>